

柵の作図

目次

1.柵の種類	2
柵の種類	
汎用柵	
アロン柵	
2.柵の接続	7
柵の配置	
柵の接続	
ルートに挿入	
3.作図した柵の編集	17
柵を含む配管の勾配	
柵を含む配管の高さ変更	
配置済みの柵の変更	
柵に接続している配管のサイズ変更	
4.柵のナンバリング	23
柵番号の設定	
柵番号の記入	
柵番号の変更	
柵番号の削除	
5.柵リストの出力	26
柵リストの作成	
柵リストの出力項目	
柵リストの柵の追加	
柵リストの文字編集	

更新日：2024/10/23 Rebro2024対応

1. 枧の種類

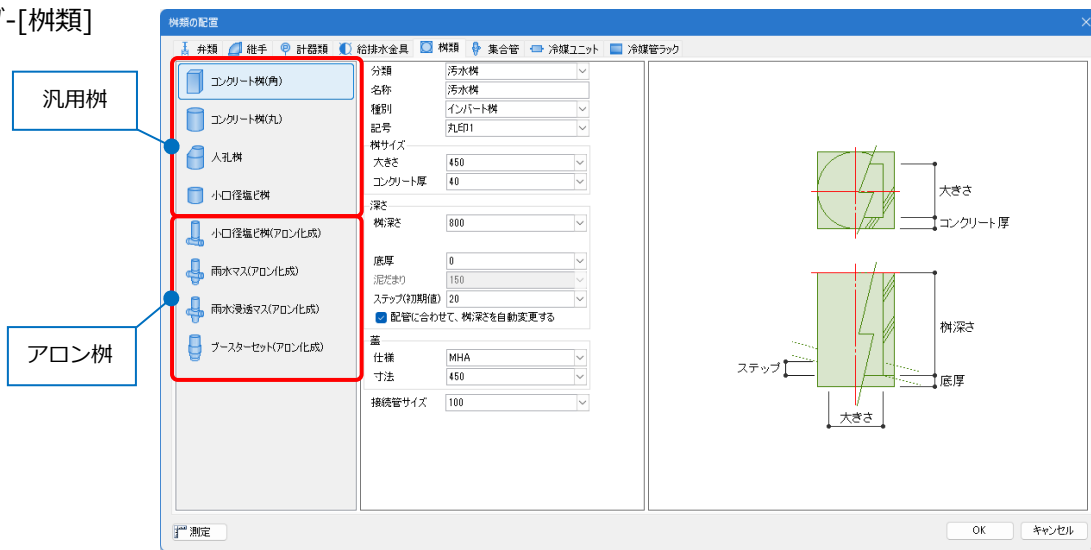
枧の種類

枧には特定のメーカーに属さない汎用的に使用できる枧とアロン化成(株)製の枧の2種類があります。(※以降前者を「汎用枧」、後者を「アロン枧」と表記します。)

汎用枧は、接続の位置や高さを自由に指定して配管を接続できます。

アロン枧は、実際のアロン化成(株)製の仕様に合わせて作成しているため、接続口の位置や高さに合わせて配管を接続します。接続口に段差があるものは取り出した配管についても自動で段差が付きます。

[配管]タブ-[枧類]



汎用枧

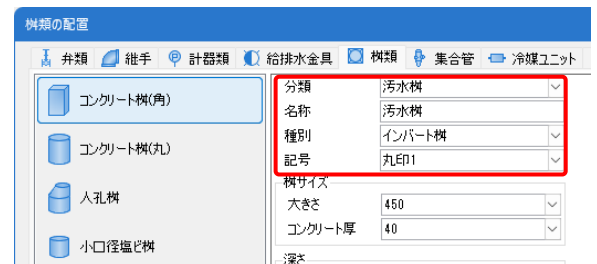
汎用枧には「コンクリート枧(角)/(丸)」「人孔枧」「小口径塩ビ枧」があります。

[枧類の配置]ダイアログで枧の名称やサイズ、深さなどを設定します。

「分類」…「汚水枧」、「雑排水枧」、「雨水枧」から選択します。

「名称」…枧の名称を手入力します。

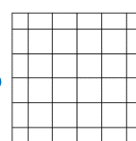
「種別(型番)」…プルダウンリストの選択肢から選択するか、手入力します。(「小口径塩ビ枧」は手入力のみ) 枧リストや拾い集計で名称と共に出力されます。



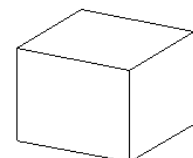
「記号」…プルダウンリストの選択肢から選択します。

選択した記号の表現が平面図上で反映されます。

記号「格子」を選択



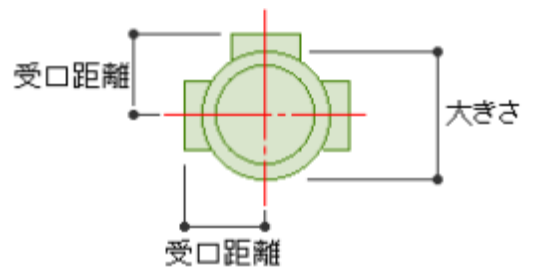
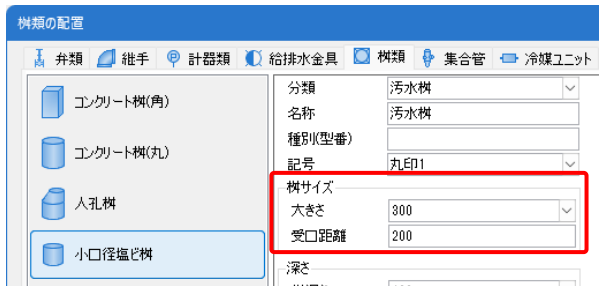
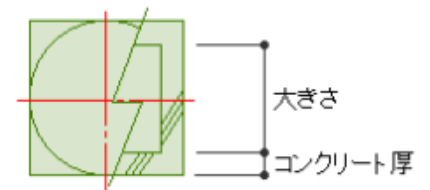
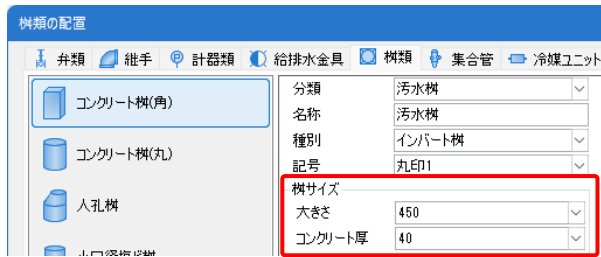
平面図



平面図以外

「**枘サイズ**」…コンクリート枘(角/丸)、人孔枘は枘の「大きさ」の他に「コンクリート厚」を入力し、枘の外形の大きさを設定します。

小口径塩ビ枘は、「受口距離」を設定し、配管の受け口の長さを指定します。



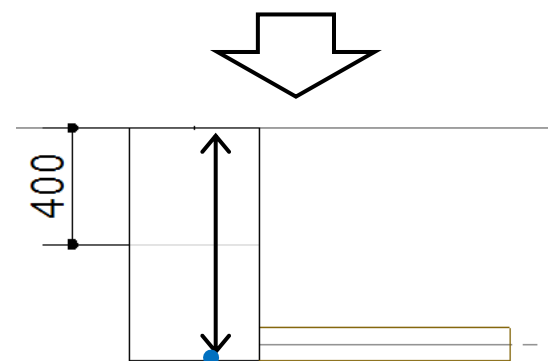
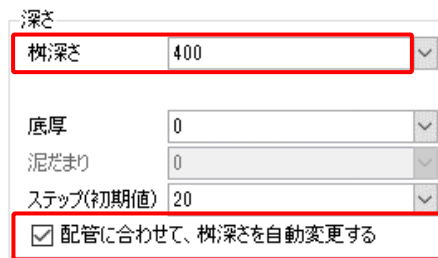
Memo

受口は枘の配置時には表示されません。
配管が接続された時に受口距離の数値が反映します。

「**深さ**」…「枘深さ」で枘の深さを指定します。

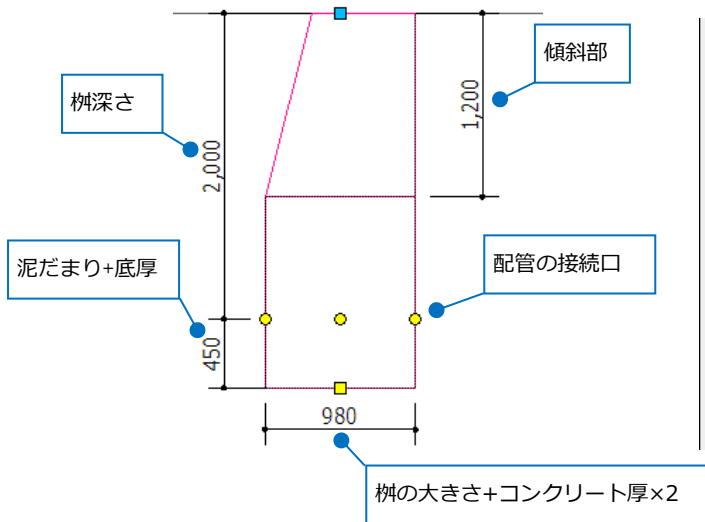
[配管に合わせて、枘深さを自動変更する]にチェックを入れた場合は、接続された配管の高さに合わせて枘深さが自動調整されるため、「枘深さ」の値は仮入力でも構いません。

公共枘など深さを固定したい場合は、チェックを外し、「枘深さ」に値を指定します。



配管の下端高さに自動で枘深さが調整されます。

その他選択した柵の種類に合わせて各値を設定します。



部材情報	
樹番号	
樹番号種別	なし
分類	雨水柵
名称	雨水柵
種別	ため柵
記号	バツ印
蓋仕様	MHA
蓋寸法	600
接続管サイズ	100
樹深さの自動変更	あり
空調・衛生	
大きさ	900 mm
樹深さ	2000 mm
傾斜部	1200 mm
地盤高さ(設計GL)	0 mm
樹深さ(設計GL±)	2000 mm
泥だまり	150 mm
コンクリート厚	40 mm
底厚	0 mm
ステップ(初期値)	20 mm
区間距離	0 mm

設定した値は、プロパティで確認、編集が可能です。

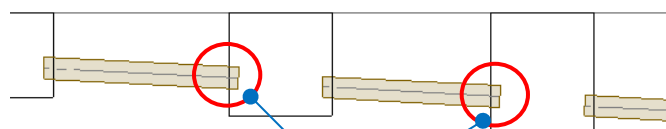
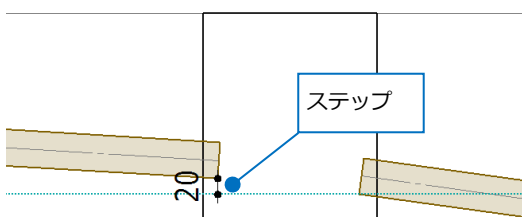
Memo

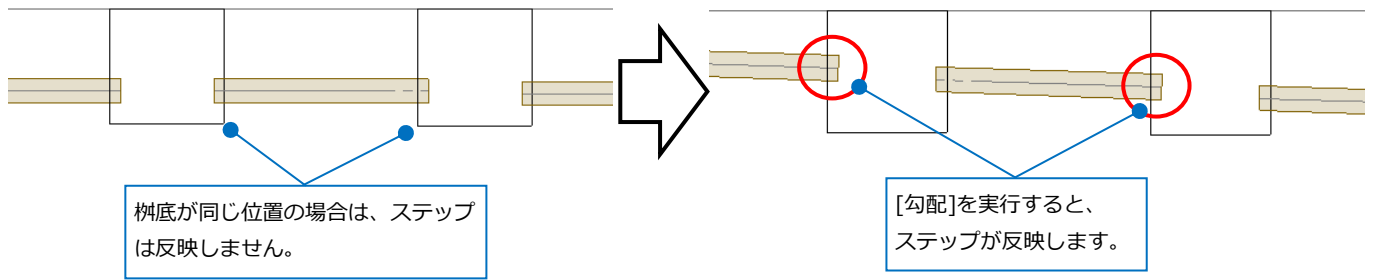
[配管に合わせて、樹深さを自動変更する]のチェックを入れると、プロパティの[部材情報]-[樹深さの自動変更]は「あり」に、チェックを外すと「なし」になります。
 本ページ以降は、チェックのあり/なしを“[樹深さの自動変更]の「あり/なし」”と表記します。

● 補足説明

ステップは、樹深さが異なる柵同士を接続した場合、柵底が低い方の柵に反映します。また、勾配のある配管を接続した場合は、勾配を優先させます。

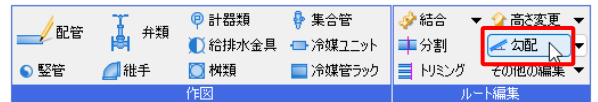
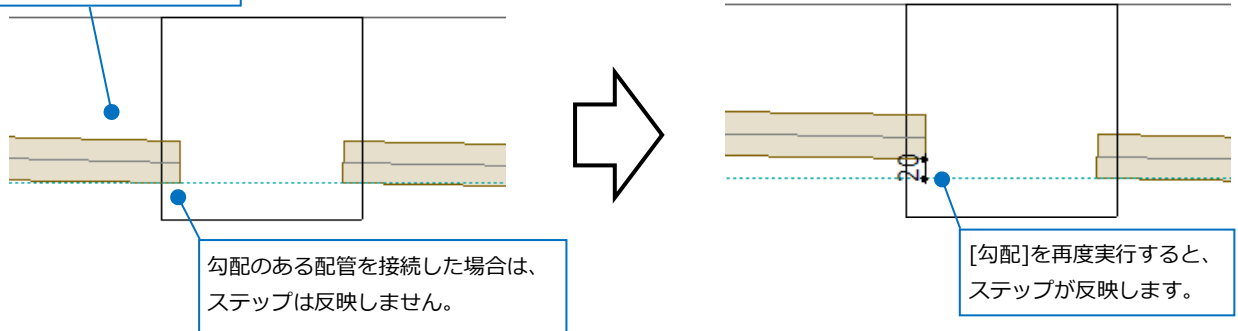
そのため、底の位置が同じ柵同士の接続の場合や、接続する配管に勾配がかかっている場合は、指定したステップが反映しません。この場合は、配管接続後に[勾配]コマンドで配管に勾配を設定することでステップが反映します。([勾配]についてはp.17参照)





配管に勾配値を設定して接続

勾配値	1/50
先下がり	先上がり
縦管の角度	90°
角度	



「蓋」…「仕様」と「寸法」を入力することで柵リストや拾い集計に反映することができます。図面上の表現は変わりません。

「接続管サイズ」…接続する配管のサイズを指定します。
[クイック結合](p.8参照)やハンドル操作(p.9参照)で配管を接続する時の配管サイズに反映します。

Memo

弊社ホームページの「[お客様提供部材](#)」にユーザー様からご提供いただいた柵の蓋の部材があります。図面上の絵表現にご利用いただけます。

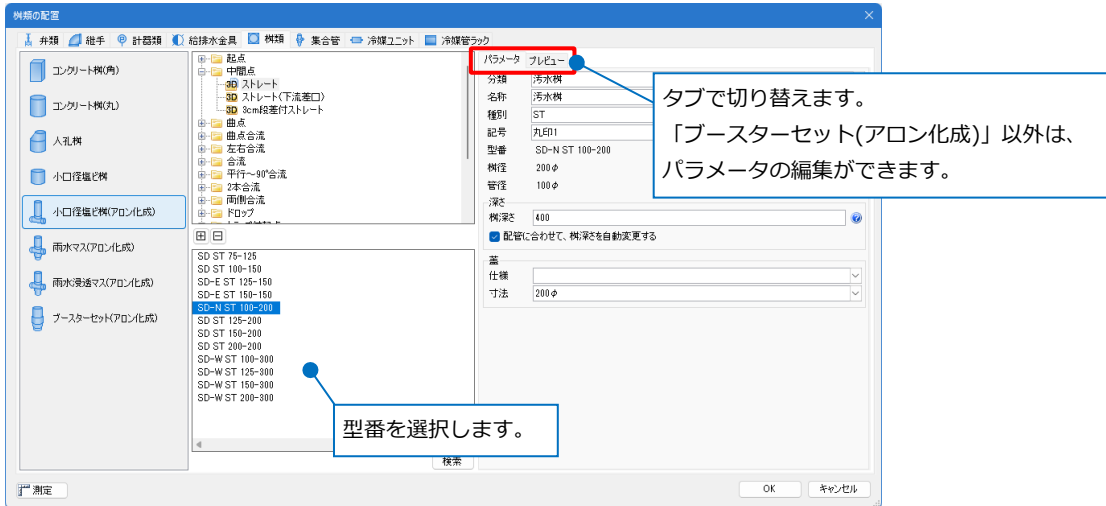
柵の配管

分類	汚水柵
名称	汚水柵
種別	インバート柵
記号	丸印1
柵サイズ	
大きさ	450
コンクリート厚	40
深さ	
柵深さ	800
底厚	0
泥だまり	150
ステップ(初期値)	20
<input checked="" type="checkbox"/> 配管に合わせて、柵深さを自動変更する	
蓋	
仕様	MHA
寸法	450
接続管サイズ	100

アロン桧

アロン桧には「小径塩ビ桧(アロン化成)」「雨水マス(アロン化成)」「雨水浸透マス(アロン化成)」「ブースターセット(アロン化成)」があります。

[桧類の配置]ダイアログより使用する桧の種類、型番を選択します。



[パラメータ]タブ(「ブースターセット(アロン化成)」以外)

- 「分類」…「汚水桧」、「雑排水桧」、「雨水桧」から選択します。
 - 「名称」…桧の名称を手入力します。
 - 「種別」…任意の値を手入力します。桧リストや拾い集計で名称と共に出力されます。
 - 「深さ」…「桧深さ」に指定した深さになるように縦管の長さが調整されます。
 - 「蓋」…「仕様」と「寸法」を手入力します。
- (※詳細はp.2～5「汎用桧」の該当項目を確認ください。)

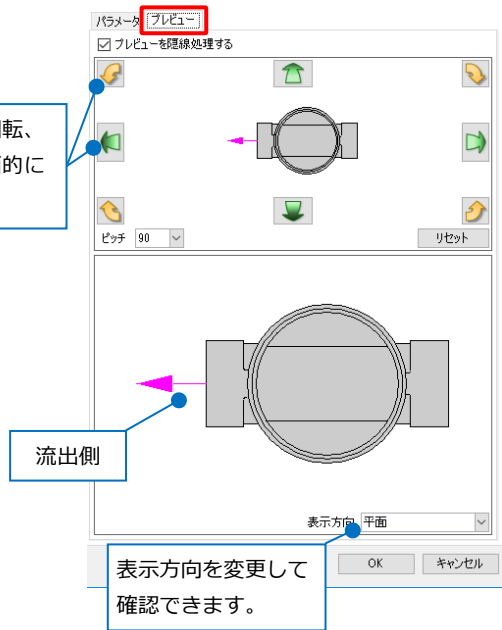
Memo

「雨水マス(アロン化成)」「雨水浸透マス(アロン化成)」は、平面図上で蓋の絵が表示されます。

[プレビュー]タブ

上段で配置時の向きを指定することができます。下段では方向を選択してプレビュー画面を確認することができます。ピンク色の矢印が表示されている口が流出側です。特に小径塩ビ桧では、型番によって桧内に勾配があるため、流入側と流出側の向きを合わせて図面上に配置します。

緑色の矢印は軸回転、黄色の矢印は平面的に回転します。



2. 柵の接続

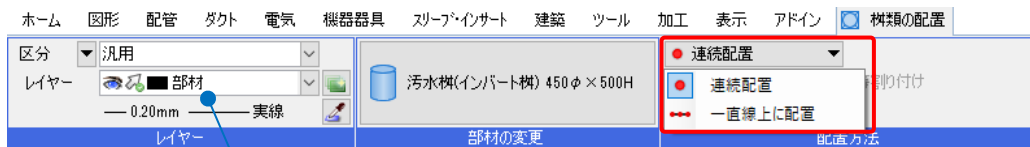
柵を接続する方法は、図面上に配置した柵同士を接続する方法と、作図済みの配管ルート上に柵を挿入する方法の2通りあります。

柵の配置

[柵類の配置]ダイアログから使用する柵を選択後、配置方法と高さを指定して配置します。

配置方法

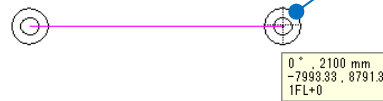
「連続配置」と「一直線上に配置」から選択します。



レイヤーを選択します。接続する配管と同じレイヤーには自動で変更されません。

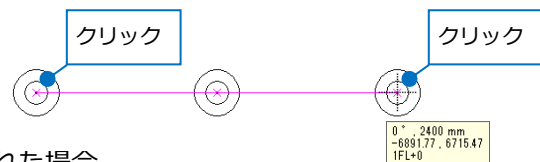
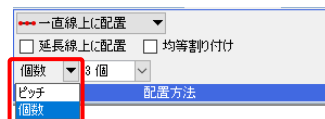
配置位置をクリック

連続配置…1個ずつ位置を指定して配置します。



一直線上に配置…複数個同時に一直線上に並べて配置します。

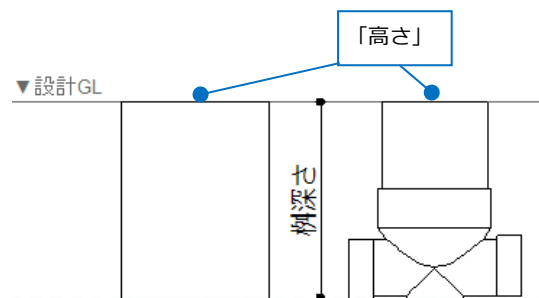
座標指定した2点間に指定した「個数」または「ピッチ」で配置します。



- ・[延長線上に配置]にチェックを入れた場合
座標指定した2点の距離間隔がピッチとなり、指定した個数を並べて配置します。
- ・[均等割り付け]にチェックを入れた場合
指定した個数またはピッチで座標指定した2点間に均等に並べて配置します。

高さ

配置する高さを指定します。柵の天端の高さを指定します。



Memo

アロン柵を配管に挿入する場合は「基準」の選択をします。(p.15参照)

高さ 0 mm 設計GL

基準 ○ 上流側 ● 下流側

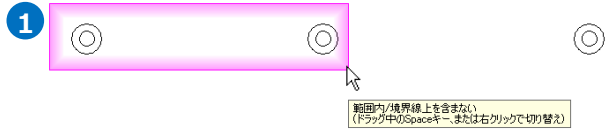
高さ

柵の接続

クイック結合

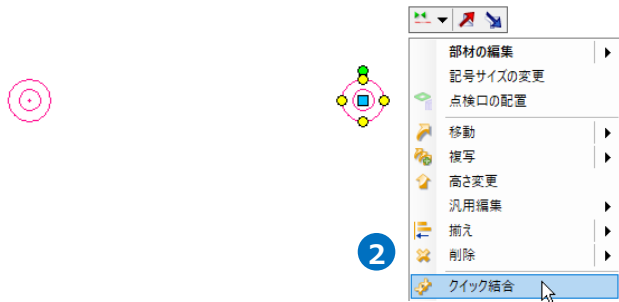
汎用柵は柵の基準点同士を直線で、アロン柵は接続口の位置に合わせて自動で接続します。

1 接続する2個の柵を選択します。



2 コンテキストメニューから[クイック結合]をクリックします。

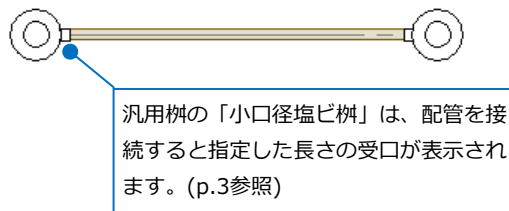
→柵同士が接続されます。



Memo

柵の「分類」に合わせて用途を判断し、配管のレイヤーが自動選択されます。必要に応じてレイヤーや材料を変更してください。

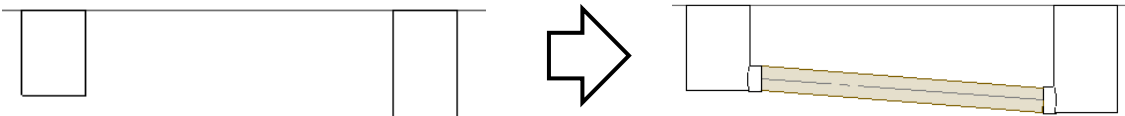
3 系統をすべて接続後、勾配を設定します。
([勾配]については、p.17参照)



クイック結合時の柵深さ

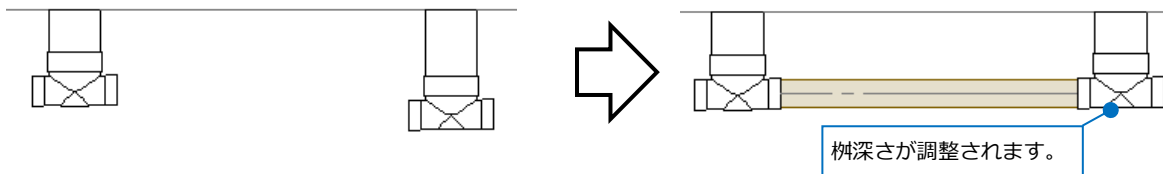
・汎用柵

接続する柵深さに合わせて配管に勾配をかけて接続します。

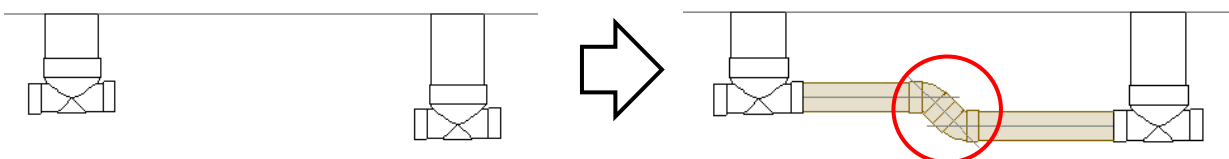


・アロン柵

[柵深さの自動変更]が「あり」の場合、片方の柵と同じ柵深さになるように縦管の長さが調整され、水平に接続されます。

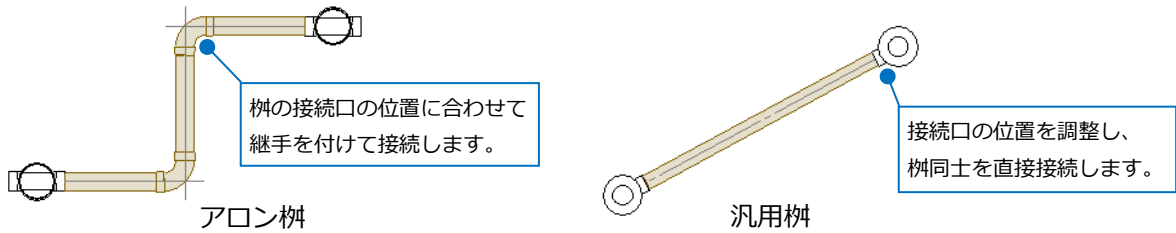


[柵深さの自動変更]が両方とも「なし」の場合、接続口の高さの差分の縦管をルート途中に作成し、接続します。柵深さに合わせた勾配はかかりません。



● 補足説明

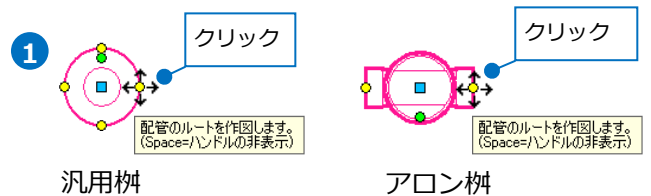
アロン桧の接続位置は固定のため、平面図上でも接続口同士が一直線上にない場合は、ルート途中で継手を発生させて接続します。汎用桧の場合は、最短距離で直接接続します。接続口の位置を指定することはできません。



ルート作図のハンドル(黄)

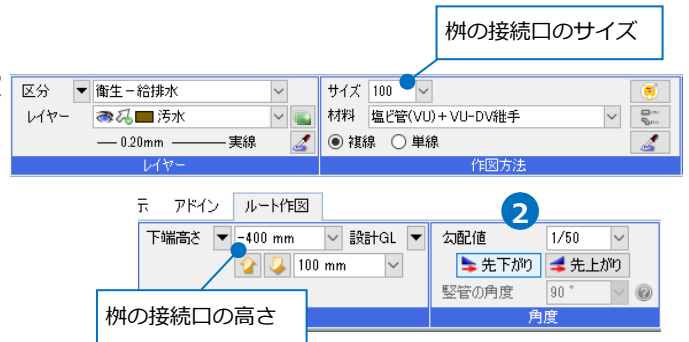
接続口から直接配管を取り出して、もう片方の接続位置を指定して接続します。勾配値を設定して配管を接続することができます。

- 1 片方の桧を選択し、ルート作図のハンドル(黄)をクリックします。

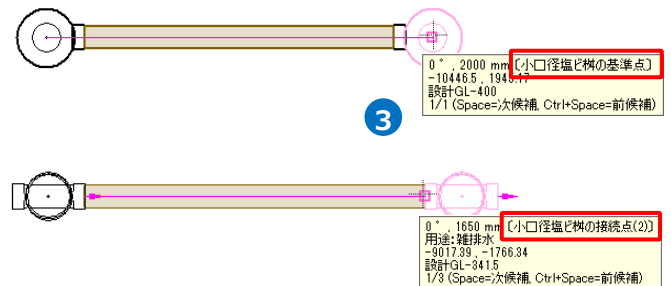


- 2 勾配値を設定します。

配管の高さは接続口の取り出し高さが自動で設定されます。



- 3 汎用桧は「基準点」、アロン桧は「接続点」で接続します。

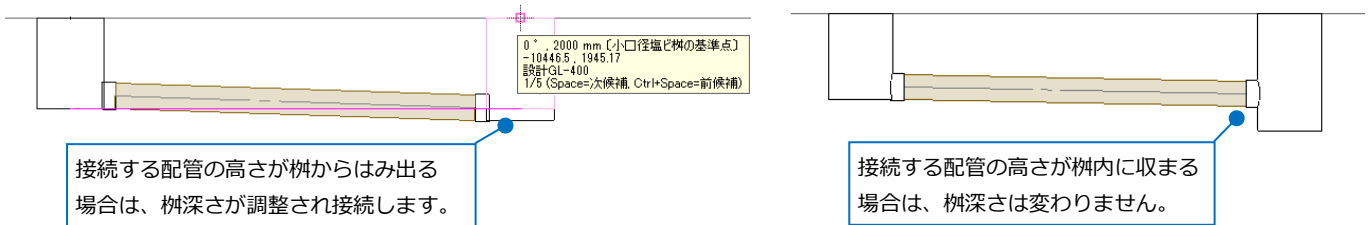


ハンドル操作時の柵深さ

・汎用柵

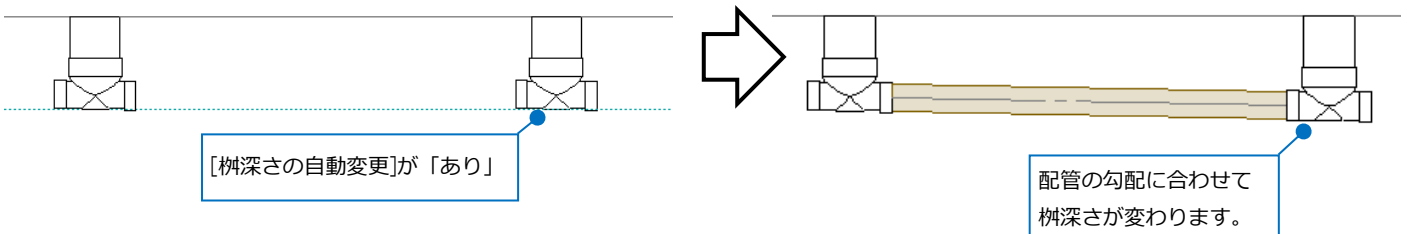
接続先の柵深さが配管の高さに足りていない場合、[柵深さの自動変更]が「あり」であれば、柵深さが自動調整されて接続されます。「なし」の場合は接続されません。

柵深さが配管の高さ以上ある場合は、柵深さは変わらず、直接配管の高さで接続します。



・アロン柵

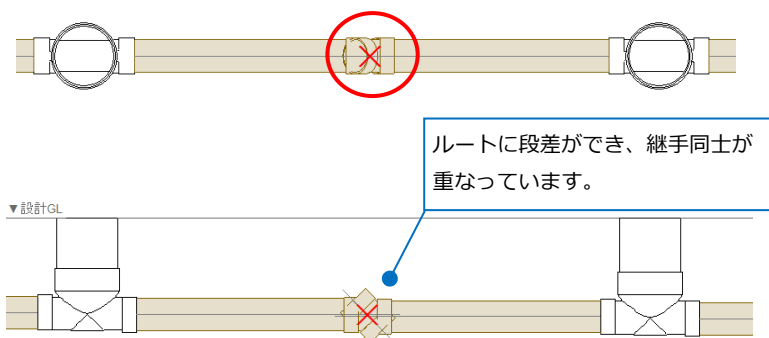
[柵深さの自動変更]が「あり」の場合、柵深さが自動調整されて配管の高さで接続します。



[柵深さの自動変更]が「なし」の場合は、接続口の位置と配管の高さにずれがあると、ルート途中に豎管を作成して接続します。(p.8参照)

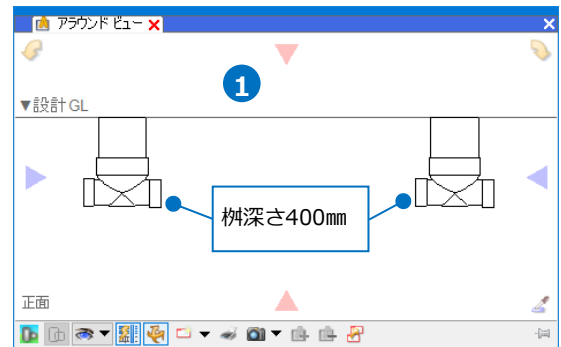
断面からのハンドル操作

アロン柵は型番によって柵内に勾配があるものがあります。この場合、流入側と流出側の口の高さが異なります。そのため、2つの柵の高さと深さが全く同じで、接続する配管の勾配値が「0」でも、接続する先の柵の[柵深さの自動変更]が「なし」の場合、接続すると段差が生じ、ルート上に「×」マークが表示される場合があります。

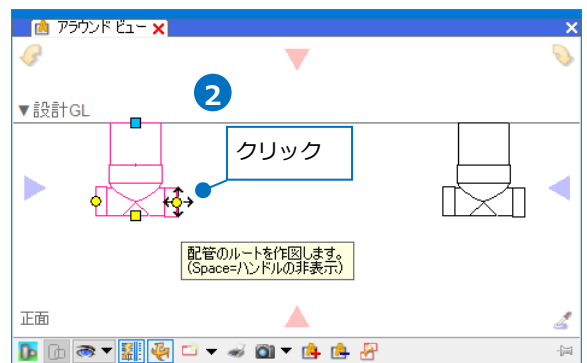


断面から直接傾斜をつけて接続します。

- 1 断面ビューや[アラウンドビュー]で接続する木の接続口が真横から見えるように表示します。



- 2 木を選択し、ルート作図のハンドル(黄)をクリックします。

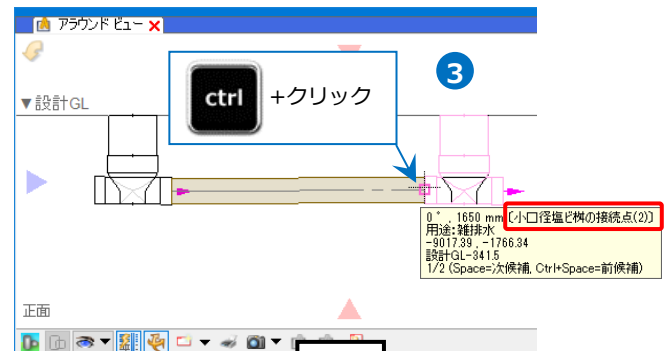


- 3 Ctrlキーを長押しし、断面上でアロン木の「接続点」をクリックします。
→接続口の位置に合わせた傾斜を付けて接続できます。

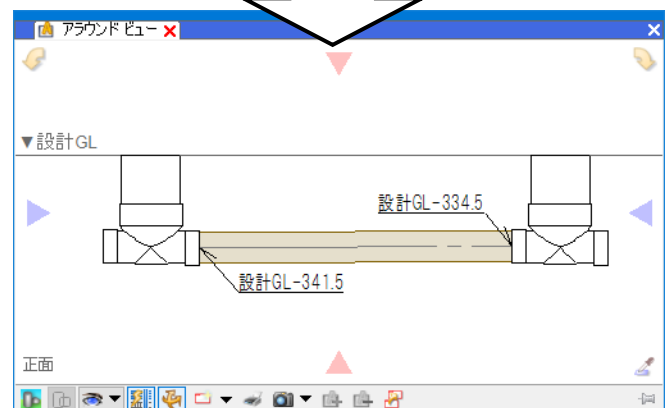
Memo

ルート作図時にCtrlキーを長押しすると、座標補正を一時的に解除して作図できます。

傾斜 10 mm
1/n 角度 15°
オプション 基準 0°
要素選択 座標指定

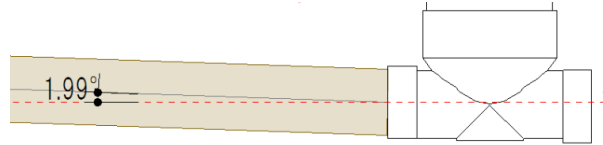
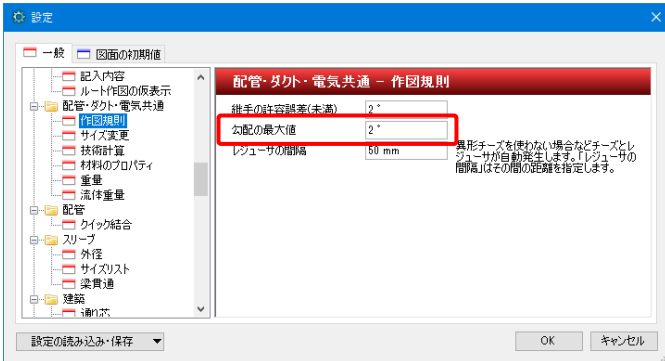


- 4 系統をすべて接続後、既定の勾配値に設定し直します。([勾配]については、p.17参照)



● 補足説明

桁深さが異なる桁同士でも、[設定]-[一般]タブ-[配管・ダクト・電気共通]-[作図規則]の「勾配の最大値」で設定した角度で収まる範囲の勾配であれば同様の方法で接続することができます。設定した角度で収まらない場合は、接続されません。



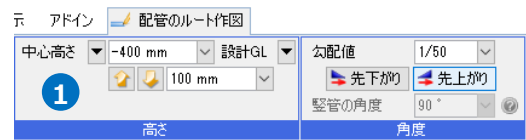
[配管]コマンド

[配管]タブ-[配管]から接続口に合わせて直接作図します。配管の高さを数値指定して作図します。汎用桁の場合は、桁の有意点上であれば接続することができるため、桁の中心からずらして接続することができます。

- 1 [配管]タブ-[配管]をクリックし、接続する配管のレイヤー、サイズ、高さ、勾配値を設定します。



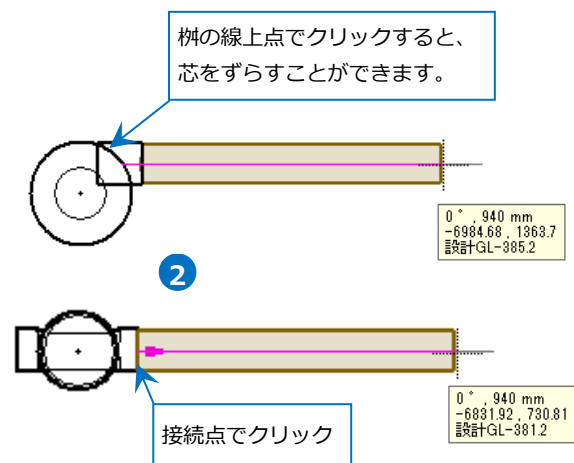
配管サイズは、桁の接続口のサイズに合わせます。



- 2 接続位置でクリックし、桁同士を接続します。汎用桁は、桁の「基準点」の他「線上点」や「端点」でも接続することができます。アロン桁は、接続点でクリックします。

Memo

アロン桁の場合、高さをプルダウンリストより「メイン管と同じ」を選択すると、指定した接続口の高さを取得することができます。

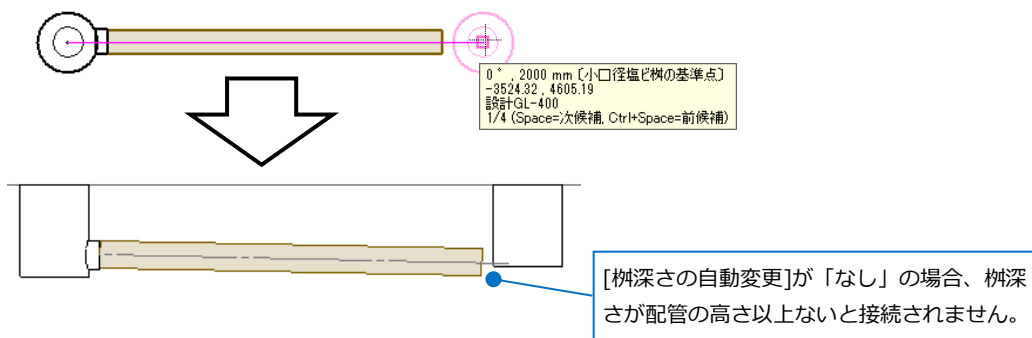


[配管]コマンド時の柵深さ

・汎用柵

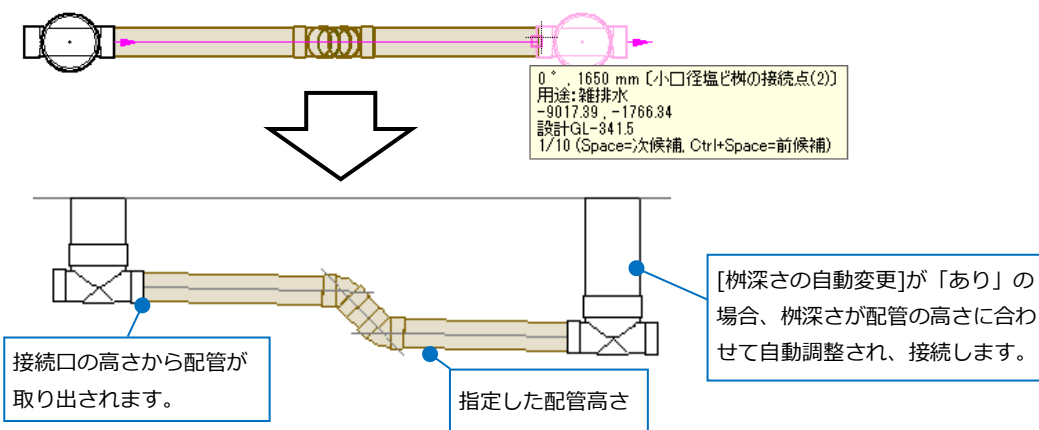
[柵深さの自動変更]が「あり」の場合は、配管の高さに合わせて自動で柵深さが調整されます。

「なし」の場合は、柵深さが指定した配管の高さ以上ないと接続することができません。(p.10「ハンドル操作時の柵深さ」と同様)

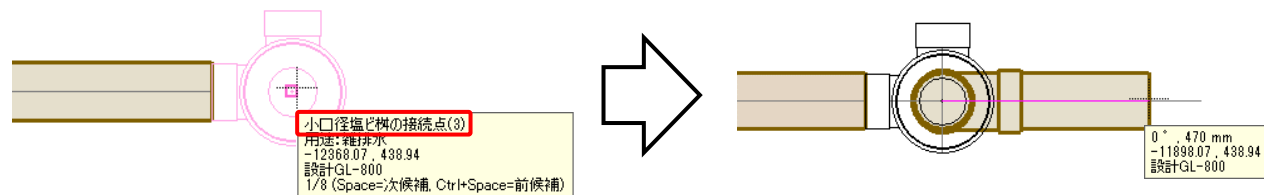


・アロン柵

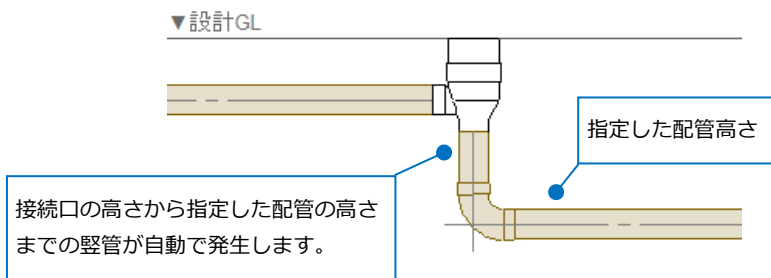
接続口の高さからルートを取り出し、指定した配管の高さと差がある場合は縦管を作成してもう片方の柵と接続します。



ドロップやトラップ付きの柵など配管を縦方向に接続する接続口の「接続点」を指定すると、接続口から指定した配管の高さまでの縦管を発生させて接続します。



Memo
「ブースターセット(アロン化成)」は、接続口がない柵のため、配管との接続はできません。

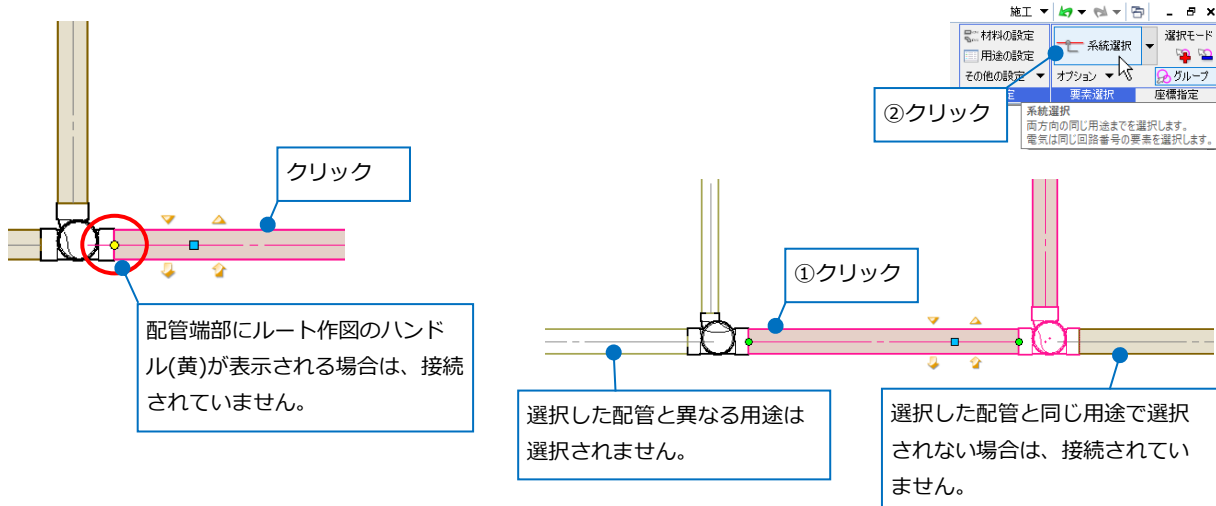


● 補足説明

以下2点のどちらかが当てはまる場合は、柵と配管の接続ができていない状態です。

- ・ 配管を選択し、柵との接続位置にルート作図のハンドル(黄)が表示される。
- ・ 配管または柵を選択し、[系統選択]をクリックしても選択されない配管や柵がある。

(選択した配管や柵と、異なる用途の配管や柵は、接続されていても選択されません。)



ルートに挿入

作図済みのルート上に柵を直接挿入します。配管の高さに合わせて配置することができます。ルート上にある継手を柵に置き換えることもできます。

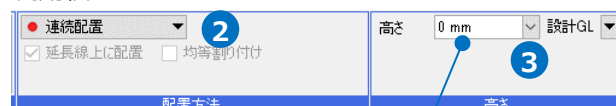
- 1 配置する柵の種類を選択します。
[配管に合わせて、柵深さを自動変更する]のチェックを入れます。
(柵の種類や設定内容については、p.2~6参照)

- 2 作図方法は「連続配置」を選択します。

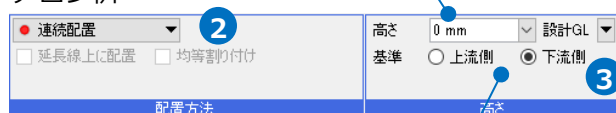
- 3 高さを指定します。柵の天端高さを入力します。

アロン柵の場合は、基準を選択します。
基準側の高さに合わせて柵が挿入されます。
(次ページ「補足説明」参照)

汎用柵

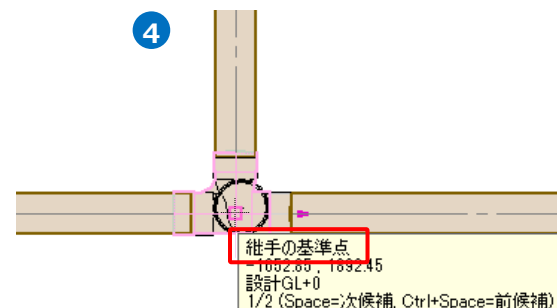


アロン柵



アロン柵の場合は、基準の
選択をします。

- 4 挿入したいルート上でクリックします。
継手を柵に置き換えたい場合は、継手の「基準点」でクリックします。



Memo

アロン柵は、配管の流れ方向と柵の接続口の向きを合わせて挿入します。[柵類の配置]ダイアログ(p.6参照)の他、挿入時にコンテキストメニューから回転することができます。

確定 (Enter)

部材の変更

高さ 0 mm 設計GL

基準 ○ 上流側 ● 下流側

回転

ピッチ 45

リセット

基準点の変更

基準点のリセット

戻る (BackSpace)

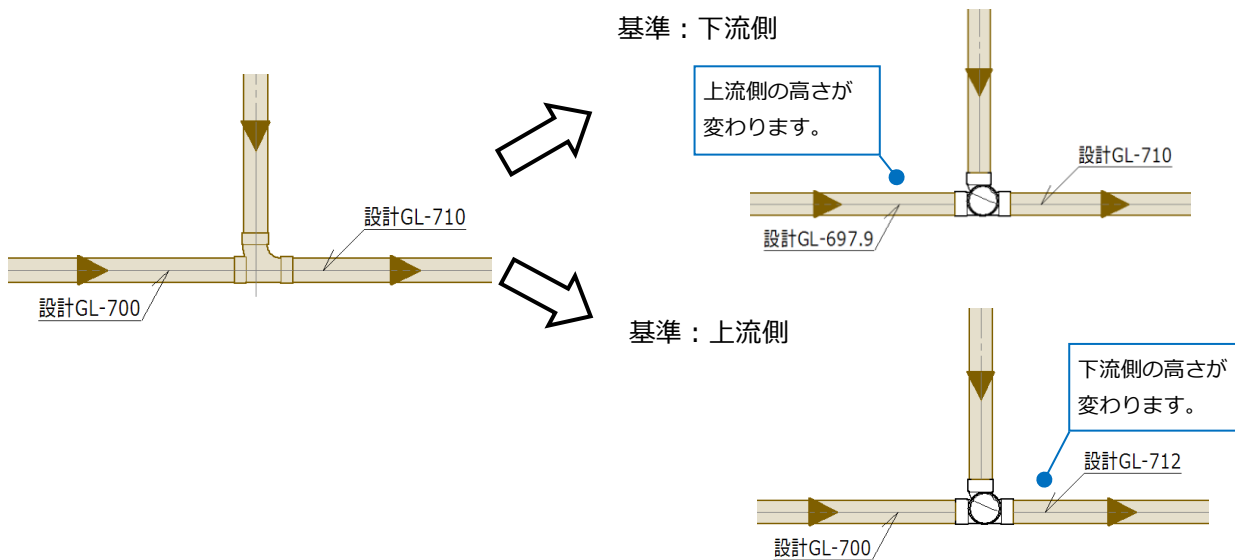
キャンセル (ESC)

● 補足説明

「勾配の最大値」で設定した角度以内であれば、勾配のある配管にも挿入できます。(p.12参照)

- 補足説明

アロン桧は型番によって桧内に勾配があるため、流入側と流出側の接続口の高さが異なる場合があります。この場合、桧を挿入することによって既存のルートの高さが変わります。

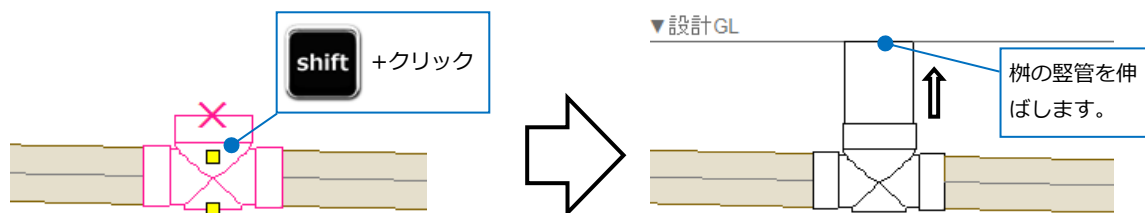


- 補足説明

アロン桧上の「×」マークは、桧の天端高さが桧本体より低い場合に表示されます。桧の縦管の天端高さ、もしくは桧深さを調整します。



断面から桧を選択し、Shiftキーを長押しします。変形のハンドル(黄)で桧の縦管を伸ばします。



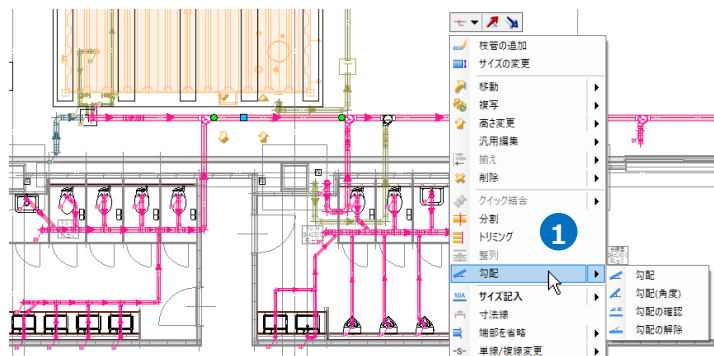
汎用桧は、桧の天端よりも高い配管には挿入することはできません。

3. 作図した柵の編集

柵を含む配管の勾配

柵を挿入した配管に勾配を設定します。勾配の設定は、「勾配値」「2点指定」「一括付加」の方法があります。既に勾配が設定されている配管についても再設定ができます。

- 1 勾配を設定する配管を選択し、コンテキストメニューの[勾配]をクリックします。



- 2 編集方法や条件を設定します。



編集方法を選択します。


勾配値 : 指定した勾配値でルートに勾配を設定します。

2点指定 : 2点間の高さを指定し、ルート上の2点を指定します。指定した高さに合わせた勾配を設定します。

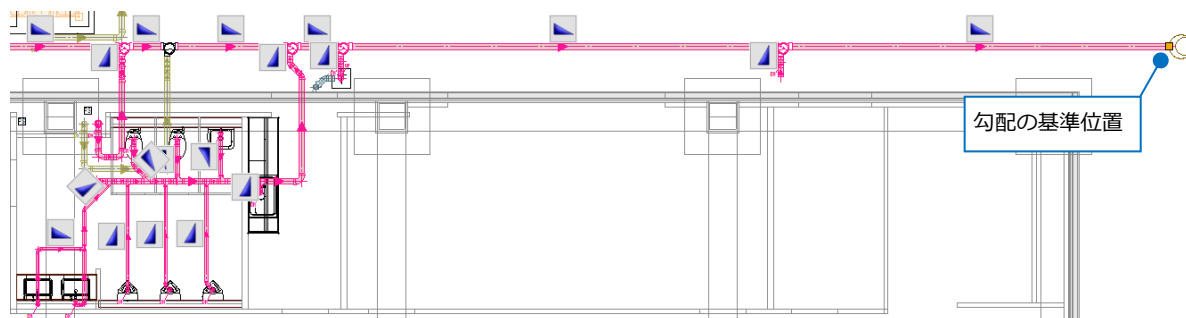
一括付加 : 配管のサイズごとに勾配値を指定してルートに勾配を設定します。
[設定]で各サイズの勾配値を設定します。

Memo
動作条件の[選択した部分だけを変更する]にチェックを入れると、図面上で選択した配管のみに勾配を設定することができます。チェックを外した場合は、同用途のメイン管に一括で勾配を設定します。

- 3 勾配の基準位置変更のハンドル(オレンジ)で勾配の基準位置を指定します。公共柵やスリーブの箇所など高さを固定したい位置を指定します。

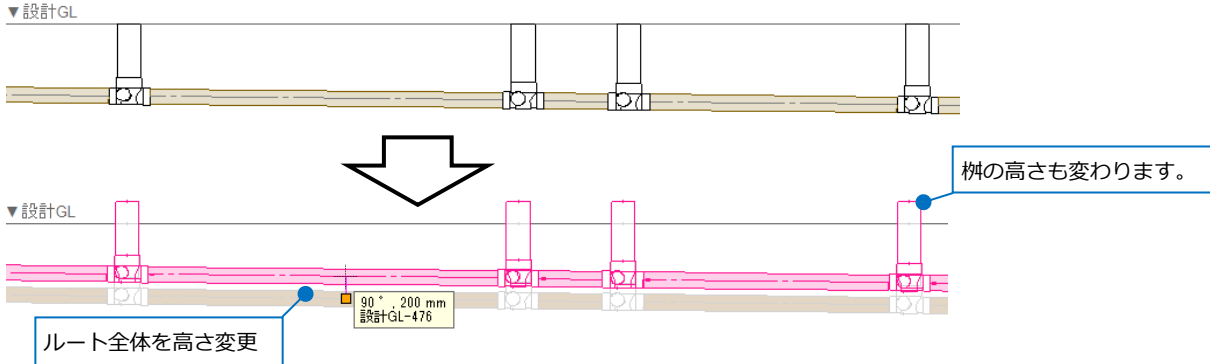
向きの異なる箇所があった場合は、アイコン()をクリックして合わせます。

→確定すると、柵が接続されている配管に勾配が設定されます。

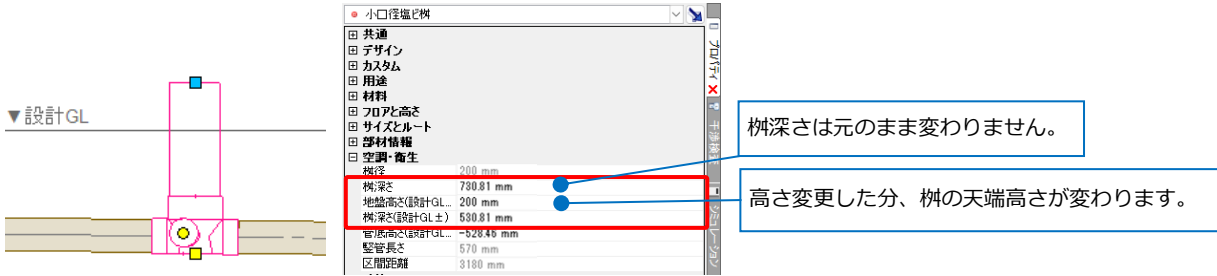


柵を含む配管の高さ変更

柵を含めた配管ルートを全体的に高さ変更する場合、[高さ変更]または断面から[移動]をします。
この時、柵の天端の高さも元の高さから変更した分だけ相対的に変わります。

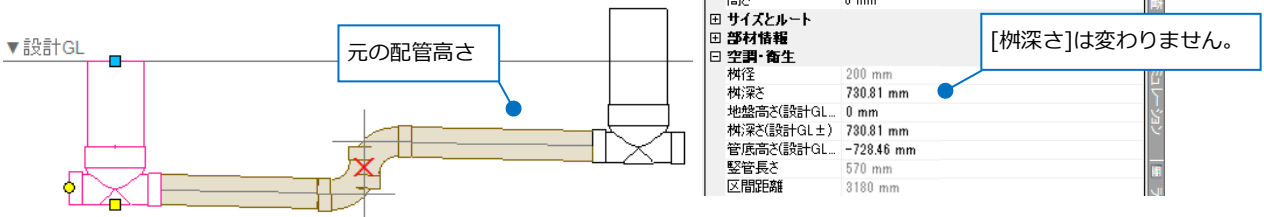


高さ変更後、柵のプロパティ[空調・衛生]-[地盤高さ(設計GL±)]を「0」(元の高さ)にし、現在の配管ルートの高さのまま柵の天端高さだけ元の位置へ戻します。



Memo

プロパティ[フロアと高さ]-[高さ]も柵の天端高さを表していますが、値が変更されても[柵深さ]は変わりません。そのため、柵に接続している配管の高さが同時に変わります。

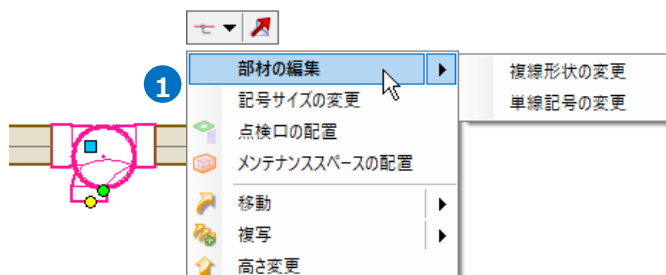


配置済みの柵の変更

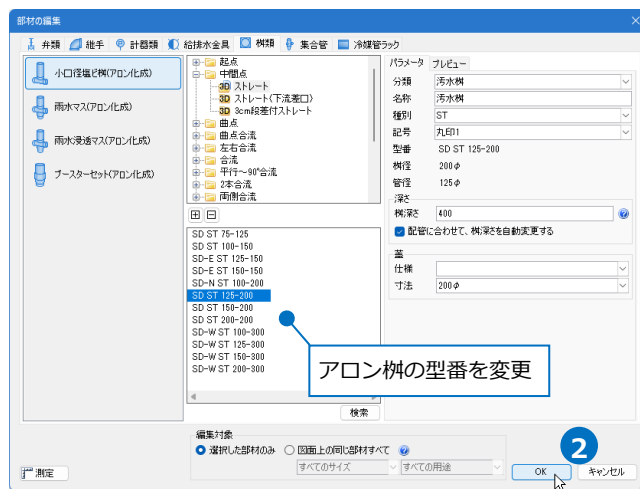
既に配置済みの柵の内容や種類を変更します。変更方法は、[部材の編集]から編集する方法と、柵を再配置して差し替える方法があります。

部材の編集

- 1 編集する柵を選択し、コンテキストメニューから[部材の編集]をクリックします。

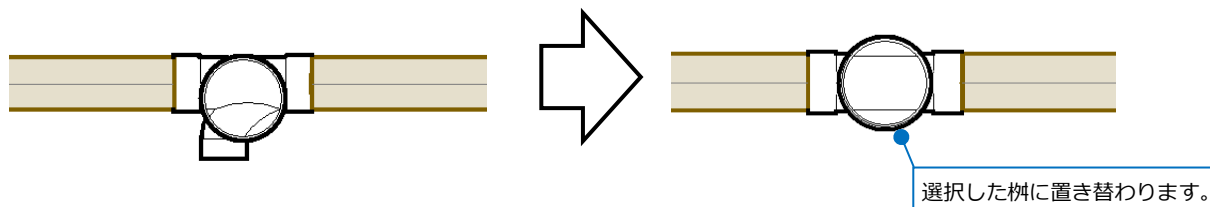


- 2 [部材の編集]ダイアログで内容を変更し、[OK]をクリックします。
→編集した内容に更新されます。



Memo

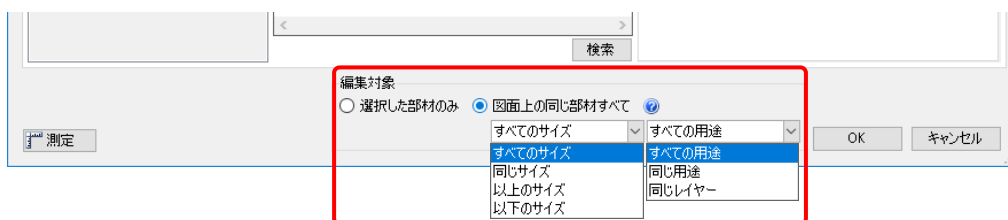
汎用柵からアロン柵に、アロン柵から汎用柵に、または、汎用柵の小口径塩ビ柵からコンクリート柵に変更など異なる柵種類に変更することはできません。
この場合は、次ページの「再配置」の方法で置き替えます。



● 補足説明

編集対象が「選択した部材のみ」の場合、図面上で選択した柵のみ変更されます。

「図面上の同じ部材すべて」の場合は、サイズ、用途やレイヤーで指定した条件と合致する図面上の柵を一括で変更できます。

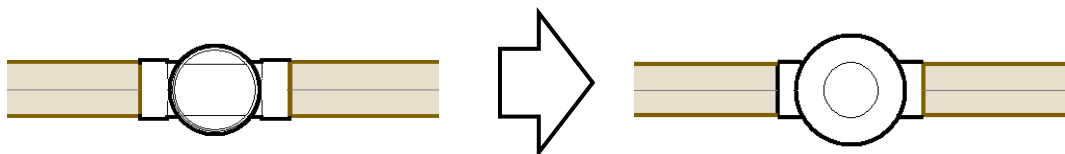
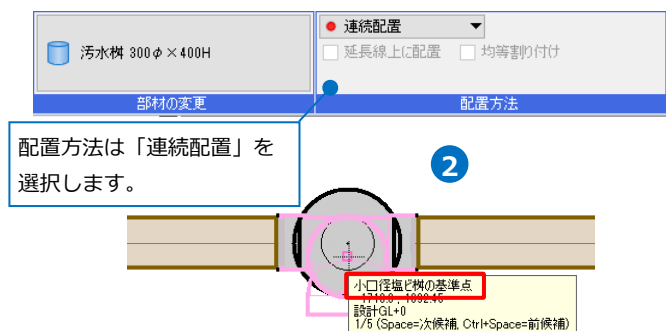


再配置

- 1 [配管]タブ-[柵類]をクリックし、差し替えたい柵の種類を選択し、内容を設定します。(p.2~6参照)



- 2 既に配置済みの柵の「基準点」をクリックします。
→選択した柵に置き替わります。



● 補足説明

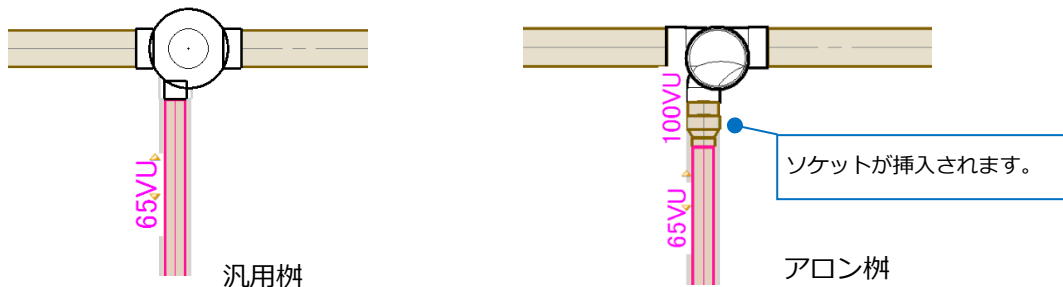
柵の種類や名称、種別、蓋の情報など柵の内容を変更したい場合は、プロパティからも変更できます。(p.4参照)

[部材の編集]や再配置で柵の種類を変更した場合は、柵に設定した柵番号はリセットされます。そのため、既に柵リストが図面上に配置されていた場合は、再度出力し直します。(柵番号、柵リストについてはp.23~参照)

枒に接続している配管のサイズ変更

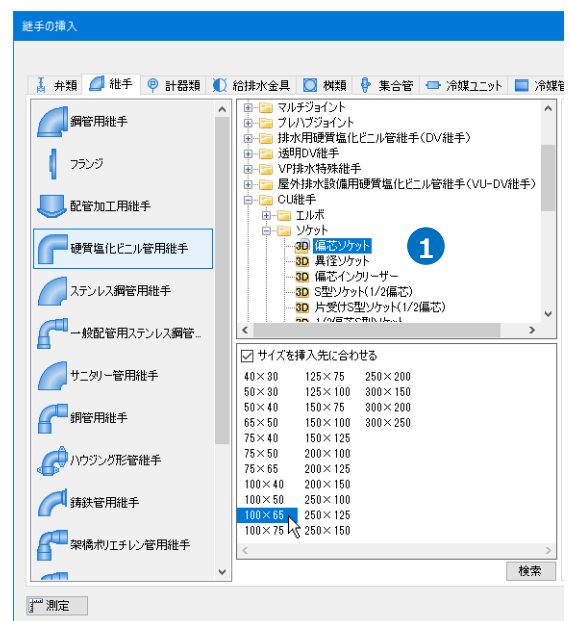
配管のコンテキストメニューの[サイズの変更]で配管のサイズが変更できます。

汎用枒については、枒に設定した「接続管サイズ」に依らず直接サイズ変更できますが、アロン枒については接続口のサイズは固定のため、レギュレーサや異径ソケットなどが追加され、サイズ変更されます。

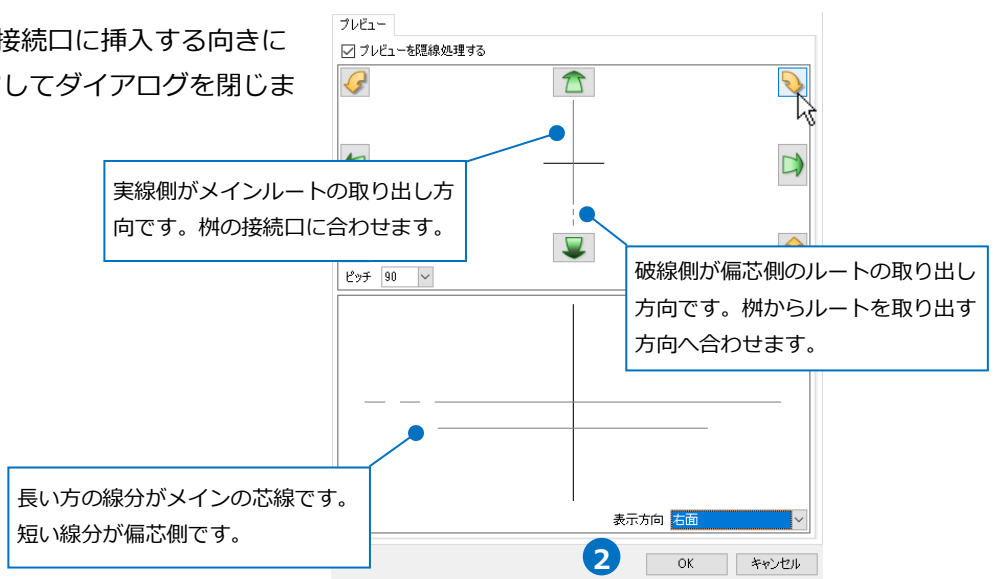


アロン枒から直接異なるサイズの配管を取り出す場合は、アロン枒の接続口にCU継手の偏芯ソケットを挿入します。

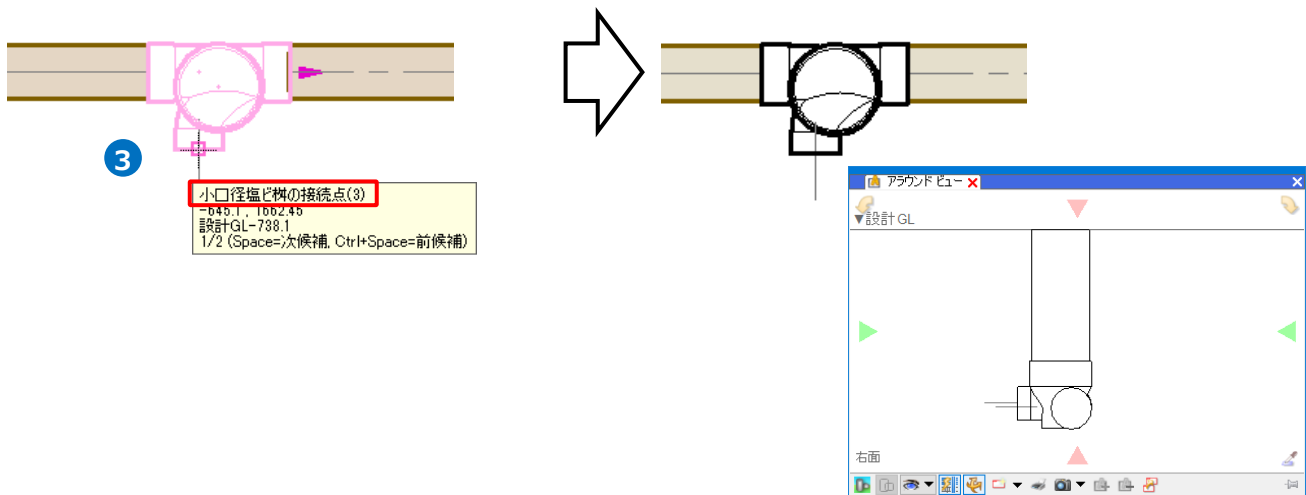
- 1 [配管]タブ-[継手]-「硬質塩化ビニル管用継手」-「CU継手」-「ソケット」-「偏芯ソケット」を選択し、アロン枒のサイズと取り出す配管サイズに合わせた型番を選択します。



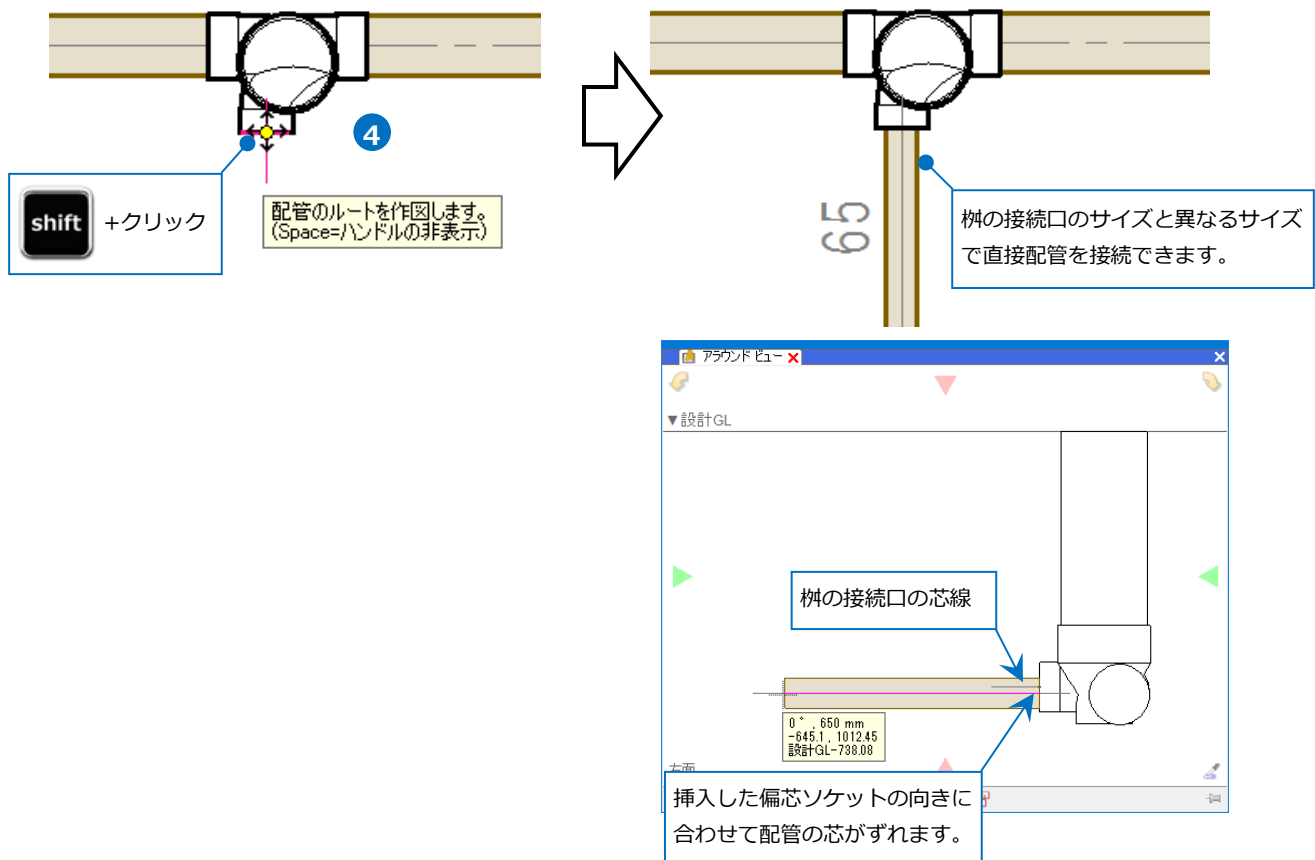
- 2 プレビュー画面にて枒の接続口に挿入する向きに合わせ、[OK]をクリックしてダイアログを閉じます。



- 3 アロン桧の「接続点」でクリックして、偏芯ソケットを挿入します。



- 4 挿入した偏芯ソケットを選択し、Shiftキーを長押しします。
 表示されたルート作図のハンドル(黄)をクリックして配管を取り出します。

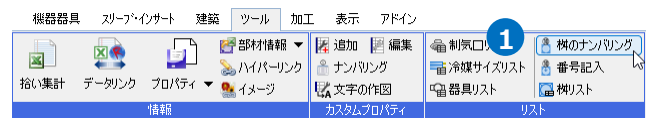


4. 柵のナンバリング

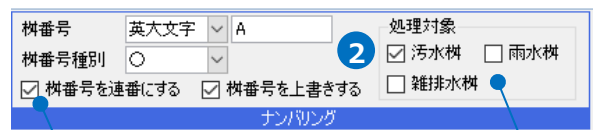
柵番号の設定

作図した柵に番号を設定します。柵1個ずつの他、範囲選択など複数の柵に一括で設定することができます。

- 1 [ツール]タブ-[柵のナンバリング]を選択します。



- 2 柵番号と柵番号種別を指定します。
処理対象を絞り込むことで指定した範囲内で該当の柵にのみ番号を設定することができます。

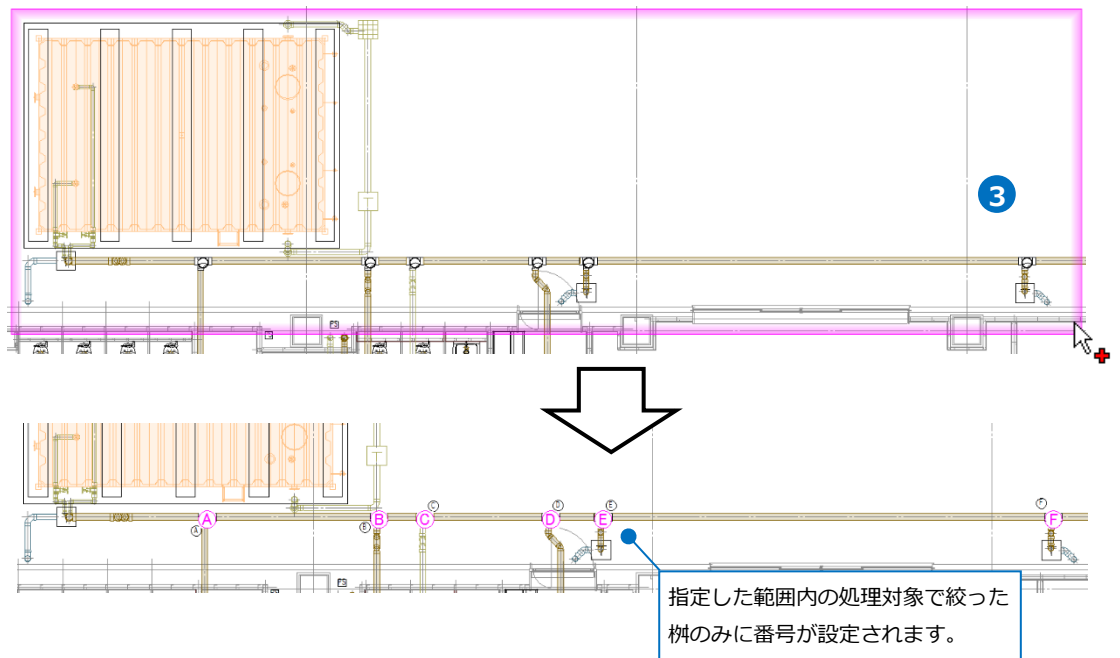


Memo
複数の柵を選択した場合、[柵番号を連番にする]にチェックを入れます。自動で番号が繰り上がって設定されます。

チェックを入れると、複数の柵に連番で番号を設定できます。

柵の「分類」で処理の対象を絞り込みます。

- 3 ナンバリングする柵を選択します。
→柵に番号が設定されます。



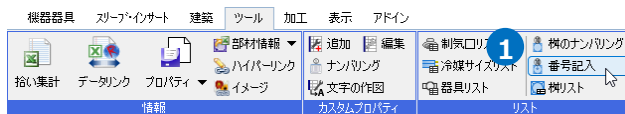
指定した範囲内の処理対象で絞った柵のみに番号が設定されます。

Memo
範囲選択などで複数の柵を選択した場合、上流側から順番に番号を設定します。

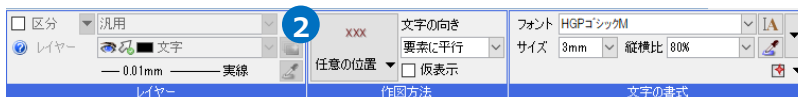
柵番号の記入

[柵のナンバリング]で設定した番号を図面上に記入します。

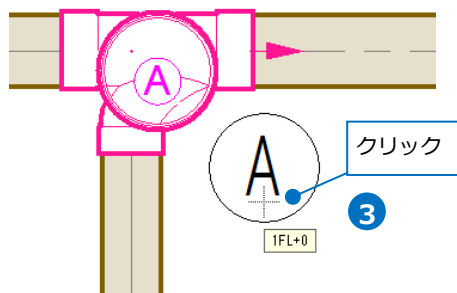
- 1 [ツール]タブ-[番号記入]を選択します。



- 2 作図方法を指定します。



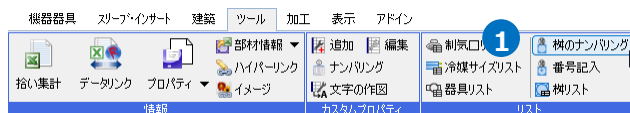
- 3 番号記入をする柵を選択し、文字を記入する位置でクリックします。



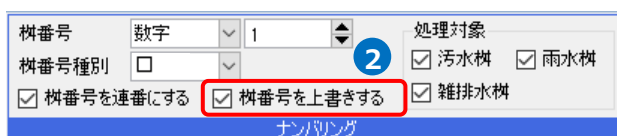
柵番号の変更

設定済みの柵番号を変更します。柵の増減があった場合、自動で番号の繰り上げ/下げなどはしないため、必要に応じて再度番号を振り直します。

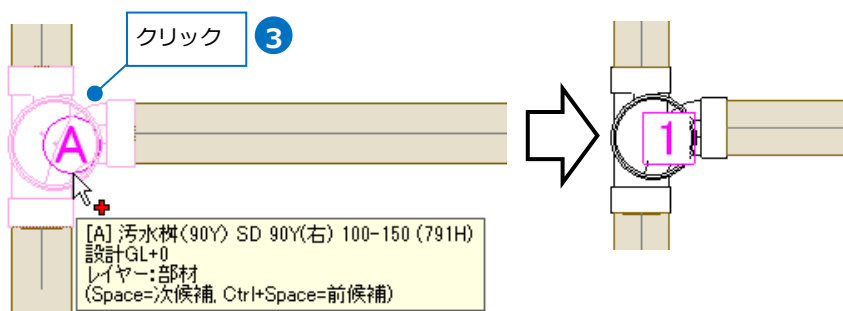
- 1 [ツール]タブ-[柵のナンバリング]を選択します。



- 2 変更後の柵番号、柵番号種別を指定し、[柵番号を上書きする]にチェックを入れます。
番号を振り直す場合は、柵番号を先頭の番号(文字)にします。

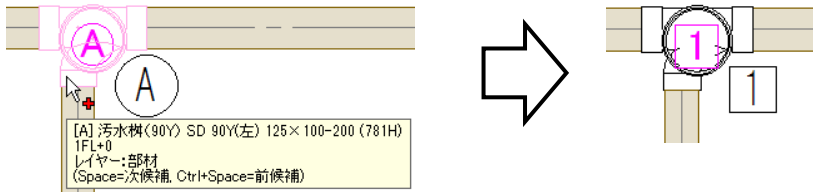


- 3 柵番号を変更する柵を選択して変更します。



- 補足説明

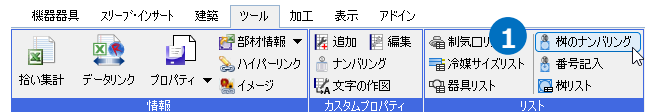
[柵のナンバリング]で設定した番号と[番号記入]で記入した柵番号は連動しているため、柵番号を変更すると文字も自動で変更されます。



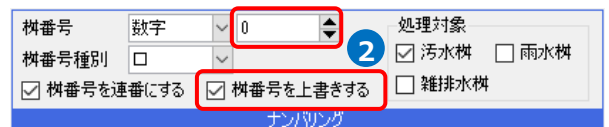
柵番号の削除

柵番号を「0」で上書きすると、設定した番号を削除することができます。

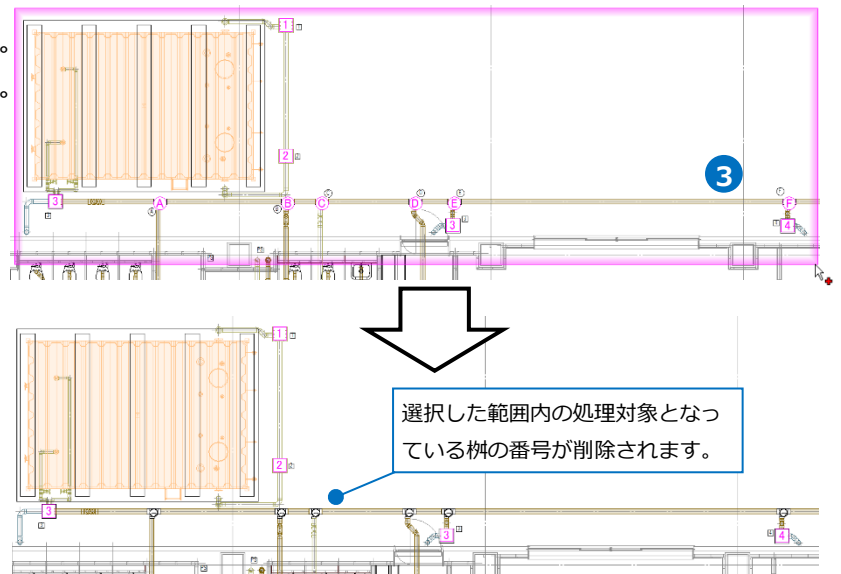
- 1 [ツール]タブ-[柵のナンバリング]を選択します。



- 2 「柵番号」に「0」を入力し、[柵番号を上書きする]にチェックを入れます。



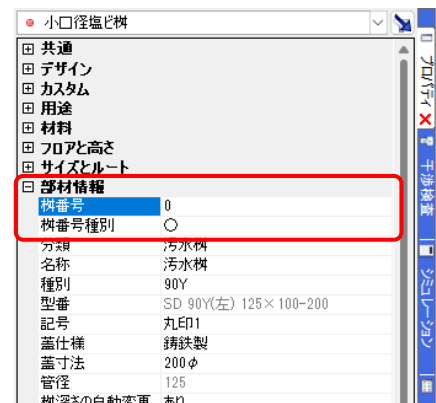
- 3 ナンバーを削除する柵を選択します。
→選択した柵の番号が削除されます。



- 補足説明

柵番号、柵番号種別はプロパティからも変更できます。

[部材情報]-[柵番号]に「0」を入力すると、番号をリセットすることもできます。

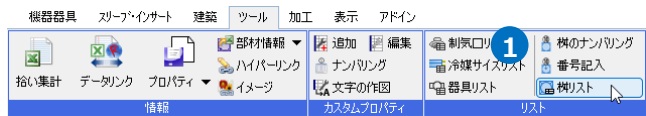


5. 柵リストの出力

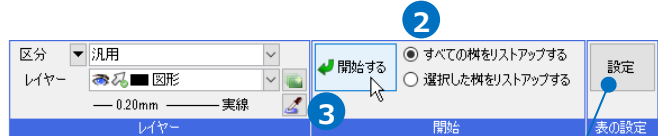
図面上の柵と連動しているリストを作成できます。

柵リストの作成

① [ツール]タブ-[柵リスト]を選択します。



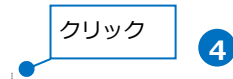
② リストアップする柵を選択します。



- ・「すべての柵をリストアップする」:
すべての柵を一つの表にまとめます。
- ・「選択した柵をリストアップする」:
選択した柵のみを表に出力します。

[設定]から柵リストの出力項目を設定できます。
※p.27~28参照

③ [開始する]をクリックします。



④ 左クリックでリストを貼り付けます。

Memo

[柵のナンバリング]で与えられた柵番号順に、柵番号種別(なし、○、□の順)ごとにまとめて並びます。

柵番号 IFL+0	名称	種別	大きさ	地盤高さ (設計GL±)	管底高さ (設計GL±)	柵深さ	柵深さ (設計GL±)	区間距離	蓋仕様	蓋寸法	備考
(A)	汚水柵	90Y	200φ	0	-728	731	731	3.2	鑄鉄製	200φ	
(B)	汚水柵	90Y	200φ	0	-767	769	769	0.6	鑄鉄製	200φ	
(C)	汚水柵	90Y	200φ	0	-779	781	781	2.2	鑄鉄製	200φ	
(D)	汚水柵	90Y	200φ	0	-807	810	810	0.7	鑄鉄製	200φ	
(E)	汚水柵	90Y	200φ	0	-821	823	823	8.9	鑄鉄製	200φ	
(F)	汚水柵	90Y	200φ	0	-916	919	919	0.0	鑄鉄製	200φ	
[1]	雨水柵	トラップ柵	300□	0		640	640	0.0	格子蓋	300φ	
[2]	雨水柵	トラップ柵	300□	0		640	640	0.0	格子蓋	300φ	
[3]	雨水柵	トラップ柵	300□	0		640	640	0.0	格子蓋	300φ	
[4]	雨水柵	トラップ柵	300□	-35		515	550	0.0	格子蓋	300φ	
[5]	雨水柵	ため柵	300□	-36	-516	481	516	3.2	格子蓋	300φ	

● 補足説明

「管底高さ」は、柵の流出側に接続されている配管の管底高さを出力します。(p.27参照)

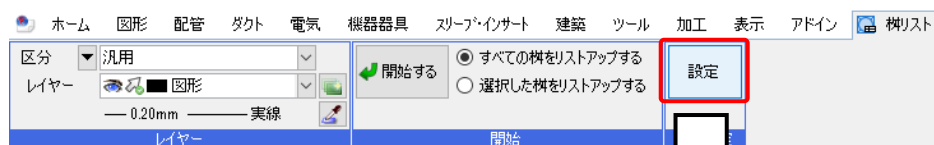
そのため、最終柵など柵の流出側に配管が接続されていない場合は、空欄になります。

最終柵ではないのに管底高さが表示されない場合は、配管の接続や、[配管]タブ-[流れの設定]で流れが合っているか確認してください。

番号	名称	種別	大きさ	地盤高さ (設計GL±)	管底高さ (設計GL±)	柵深さ	柵深さ (設計GL±)	区間距離	蓋仕様	蓋寸法	備考
(A)	汚水柵	90Y	200φ	0	-728	731	731	3.2	鑄鉄製	200φ	
(B)	汚水柵	90Y	200φ	0	-767	769	769	0.6	鑄鉄製	200φ	
(C)	汚水柵	90Y	200φ	0	-779	781	781	2.2	鑄鉄製	200φ	
(D)	汚水柵	90Y	200φ	0	-807	810	810	0.7	鑄鉄製	200φ	
(E)	汚水柵	90Y	200φ	0	-821	823	823	8.9	鑄鉄製	200φ	
(F)	汚水柵	90Y	200φ	0	-916	919	919	0.0	鑄鉄製	200φ	
[1]	雨水柵	トラップ柵	300□	0		640	640	0.0	格子蓋	300φ	
[2]	雨水柵	トラップ柵	300□	0		640	640	0.0	格子蓋	300φ	
[3]	雨水柵	トラップ柵	300□	0		640	640	0.0	格子蓋	300φ	
[4]	雨水柵	トラップ柵	300□	-35		515	550	0.0	格子蓋	300φ	
[5]	雨水柵	ため柵	300□	-36	-516	481	516	3.2	格子蓋	300φ	

柵リストの出力項目

柵リストに出力する項目は、[柵リスト]-[設定]から選択できます。



リストに出力する項目名にチェックを入れます。

出力	項目名	単位	列幅
<input checked="" type="checkbox"/>	番号		
<input checked="" type="checkbox"/>	名称		
<input checked="" type="checkbox"/>	種別		
<input checked="" type="checkbox"/>	大きさ		
<input checked="" type="checkbox"/>	地盤高さ(設計GL±)	mm	15mm
<input checked="" type="checkbox"/>	管底高さ(設計GL±)	mm	15mm
<input checked="" type="checkbox"/>	柵深さ	mm	15mm
<input checked="" type="checkbox"/>	柵深さ(設計GL±)	mm	15mm
<input checked="" type="checkbox"/>	区間距離	m(小数一位)	15mm
<input checked="" type="checkbox"/>	蓋仕様		15mm
<input checked="" type="checkbox"/>	蓋寸法		15mm
<input checked="" type="checkbox"/>	備考		25mm

単位はmm、m(小数一位)、m(小数二位)から選択します。

行の高さ 5mm
 フォント MS Pゴシック サイズ 4mm

・番号：[柵のナンバリング]で設定した番号が表示されます。(p.23参照)

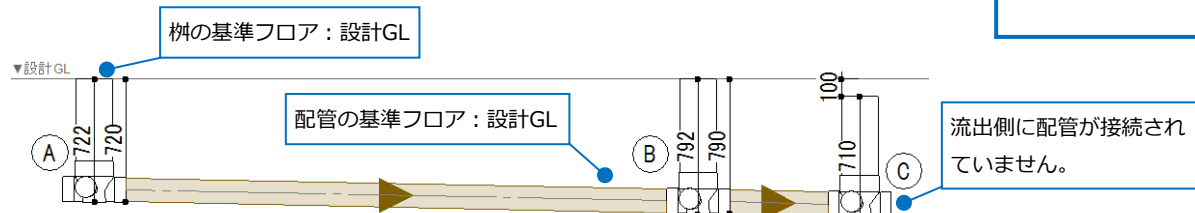
- ・名称：柵に設定した名称を表示します。
- ・種別：柵に設定した種別を表示します。
- ・大きさ：柵の大きさを表示します。
(詳細はp.2~6「1.柵の種類」参照)

番号	名称	種別	大きさ
(A)	汚水柵	90Y	200φ
(I)	雨水柵	トラップ柵	300□

- ・地盤高さ(設計GL±)：柵の基準フロアからの柵の天端高さを表示します。
- ・管底高さ(設計GL±)：配管の基準フロアからの流出側の管底高さを表示します。
- ・柵深さ：柵の天端から下端の長さを表示します。
- ・柵深さ(設計GL±)：柵の基準フロアからの柵の下端高さを表示します。

番号	名称	種別	大きさ	地盤高さ(設計GL±)	管底高さ(設計GL±)	柵深さ	柵深さ(設計GL±)	区間距離
(A)	汚水柵	90Y	200φ	0	-720	722	722	3,180
(B)	汚水柵	90Y	200φ	0	-790	792	792	580
(C)	汚水柵	90Y	200φ	-100		710	810	0

Memo
 柵深さに雨水柵の泥だまりは含まれません。
 (p.4参照)



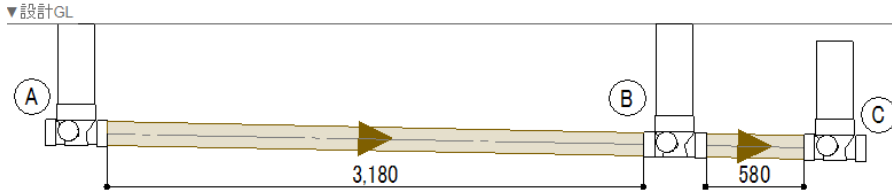
- ・ 区間距離： 枘の外枠から枘の外枠までの距離を表示します。
上流の枘の項目に下流の枘までの距離を表示します。

番号	名称	種別	大きさ	地盤高さ (設計GL土)	管底高さ (設計GL土)	枘深さ	枘深さ (設計GL土)	区間距離
(A)	汚水枘	90Y	200φ	0	-720	722	722	3,180
(B)	汚水枘	90Y	200φ	0	-790	792	792	580
(C)	汚水枘	90Y	200φ	-100		710	810	0

下流側のB枘までの距離

下流側のC枘までの距離

下流側に枘の接続なし



- ・ 蓋仕様： 枘に設定した蓋仕様を表示します。
- ・ 蓋寸法： 枘に設定した蓋寸法を表示します。
(詳細はp.2~6「1.枘の種類」参照)
- ・ 備考： 備考欄を表示します。

パラメータ プレビュー

分類 汚水枘

名称 汚水枘

種別 90Y

記号 丸印1

型番 SD 90Y(左) 125×100-200

枘径 200φ

管径 125φ

深さ

枘深さ 730.80

配管に合わせて、枘深さを自動変更する

蓋

仕様 鋳鉄製

寸法 200φ

分類 雨水枘

名称 雨水枘

種別 トラップ枘

記号 T字

枘サイズ

大きさ 300

コンクリート厚 50

深さ

枘深さ 515

底厚 40

泥だまり 150

ステップ(初期値) 20

配管に合わせて、枘深さを自動変更する

蓋

仕様 格子蓋

寸法 300

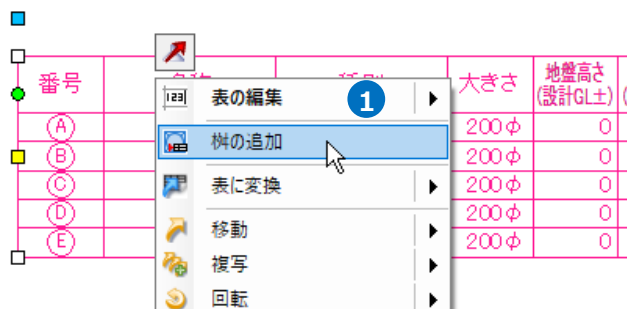
接続管サイズ 100

番号	名称	種別	大きさ	蓋仕様	蓋寸法	備考
(A)	汚水枘	90Y	200φ	鋳鉄製	200φ	
1	雨水枘	トラップ枘	300□	格子蓋	300φ	

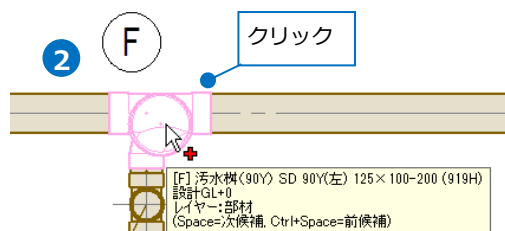
柵リストの柵の追加

柵リスト出力後に追加された柵をリストに追加します。

- 1 項目を追加する柵リストを選択します。コンテキストメニューの[柵の追加]をクリックします。



- 2 柵リストに追加する柵を選択し、確定します。



- 3 柵リストに選択した柵が追加されます。

番号	名称	種別	大きさ	地盤高さ (設計GL±)	管底高さ (設計GL±)	柵深さ	柵深さ (設計GL±)	区間距離	蓋仕様	蓋寸法	備考
(A)	汚水柵	90Y	200φ	0	-728	731	731	3.2	铸铁製	200φ	
(B)	汚水柵	90Y	200φ	0	-767	769	769	0.6	铸铁製	200φ	
(C)	汚水柵	90Y	200φ	0	-779	781	781	2.2	铸铁製	200φ	
(D)	汚水柵	90Y	200φ	0	-807	810	810	0.7	铸铁製	200φ	
(E)	汚水柵	90Y	200φ	0	-821	823	823	8.9	铸铁製	200φ	
(F)	汚水柵	90Y	200φ	0	-916	919	919	0.0	铸铁製	200φ	

Memo

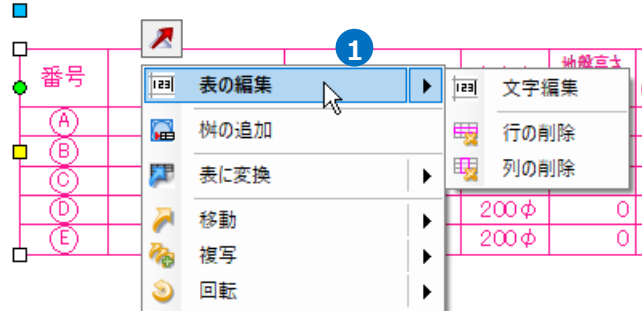
図面上の柵を削除した場合は、自動的に柵リストから該当する行が削除されます。

柵リストの文字編集

作成した柵リストの各項目のタイトル名、「名称」「地盤高さ」「管底高さ」「柵深さ」「柵深さ(設計GL±)」「備考」の値を編集することができます。[柵リスト]で作成した表は、図面上の柵と連動しています。柵リストを編集すると、対応する柵の高さなどが自動で変わります。

- 1 柵リストを選択し、コンテキストメニューから[表の編集]をクリックします。

Memo
[表の編集]-[行の削除]または[列の削除]から柵リストの行や列の削除も行えます。

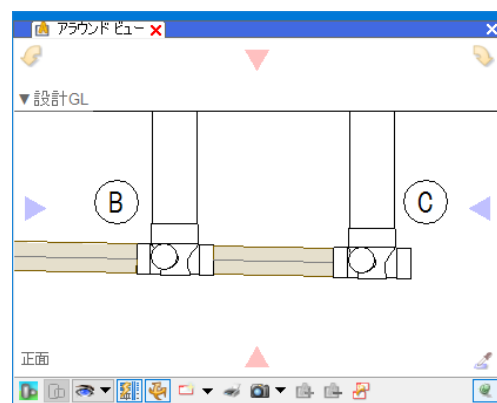
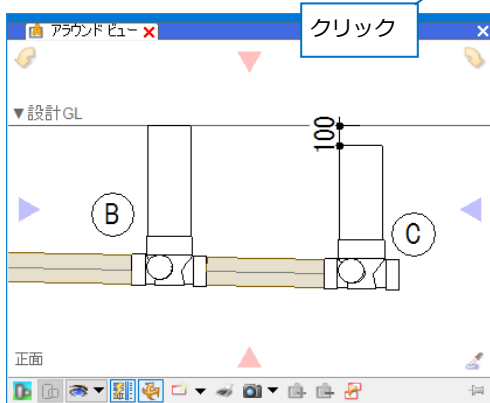


- 2 内容を変更するセルをクリックし、数値や文字を入力します。

番号	名称	種別	大きさ	地盤高さ(設計GL±)
(A)	汚水柵	90Y	200φ	0
(B)	汚水柵	90Y	200φ	0
(C)	汚水柵	90Y	200φ	-100



番号	名称	種別	大きさ	地盤高さ(設計GL±)
(A)	汚水柵	90Y	200φ	0
(B)	汚水柵	90Y	200φ	0
(C)	汚水柵	90Y	200φ	0



● 補足説明

[表の編集]で変更できるのは、一行目のタイトル行と「名称」「地盤高さ」「管底高さ」「柵深さ」「柵深さ(設計GL±)」「備考」です。その他の項目は、図面中の柵から情報を取得します。柵を選択し、[部材の編集]または[プロパティ]から情報を変更すると、自動的にリストに反映されます。

コンテキストメニューから[表に変換]を行うと、[表の編集]から全項目の内容を変更できるようになります。この場合、柵との連動は解除され、柵の情報を変更しても反映されません。

